



発行責任者
特定非営利活動法人
相模原市障害児者福祉団体連絡協議会
(通称：NPO 法人れんきょう)
会長 鈴木 秀美
相模原市中央区富士見 6-1-20 (あじさい会館内)
TEL&FAX 042-755-5282 (直通)

さーくる 障害理解

検索

題 字「わ」 相模原市長 本村 賢太郎

《新年のご挨拶》

明けましておめでとうございます。会員の皆様も晴れやかな 2026 年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年は 11 月に 2025 東京デフリンピックが開催されました。約 80 ヶ国から 3,000 名もの選手が 17 種の競技に参加し、日本は 51 個のメダルを獲得しました。

デフリンピックは 1924 年にパリで第 1 回大会が開かれてから 100 年が経過しました。今回の東京デフリンピックでは、聴覚にハンディキャップの有る人達でも、多くの競技で素晴らしいパフォーマンスを発揮して感動を与えてくれました。

障がい者のための競技大会は、デフリンピックの他にオリンピックと同年に同じ開催地で開かれるパラリンピックや知的障がい者を対象としたスペシャルオリンピックがあります。これらの競技を通じて障がいの無い人たちも障がいに関する理解を深め、共生社会の実現に近づいて行くものと思います。

「れんきょう」としても、障がい理解を推進するため、令和 8 年 2 月 1 日に相模原市民会館で「デフリンピックの過去・現在・日本の未来」と題した研修会を開催します。多くの方々の参加をお待ちしております。

最後になりましたが、本年が皆様にとって良い年であるように祈念申し上げます。

《令和 7 年度福祉施策懇談会のご案内》

福祉施策懇談会は障がい者団体と市行政が障がい福祉に関する問題点について意見交換する貴重な機会です。相模原市内の約 30 の障がい者団体が参加します。市行政からは、市長、副市長を始め、関係部局の多くの職員が参加されます。

障がい者団体が提出した障がい福祉に関する問題点や要望事項に対して、市行政から文書にて回答をいただき、その回答に関しての質疑・応答を展開します。

本年度の福祉施策懇談会は令和 8 年 3 月 15 日(日)にあじさい会館で開催の予定です。また、従来は懇談会の開催時間は 2 時間でしたが、障がい者団体からの時間延長の要望に応じていただき、3 時間(9 時～12 時)の開催となります。

《ほかほかふれあいフェスタ 2025 報告》

冬のほかほかふれあいフェスタは障害者週間（12/3～12/9）に先立つ11月29日に相模大野駅北口広場で開催されました。参加されたのは4団体で、「ウクレレマイスターズ（支援学校の先生方のバンド）」と「チョップスティックス（支援学校の先生方のバンド）」の歌唱と楽器演奏、「S. N. D. F」の子供達のヒップホップダンス、「よさこいソーラン一心」による勇壮なよさこい演舞が演じられました。多くの通行人も足を止め、拍手を送ってくれました。出店した「生活介護支援事業所のびやか」の売店ではクッキーや手工芸品を販売し好評でした。



また、障がい理解を深めるチラシや団体の活動を紹介するパンフレット類を200部配布しました。当日の気温は低かったものの晴天にも恵まれて多くの人達に参加いただけました。

市の行政の方々、福祉関係団体、ほかほかふれあいフェスタの実行委員会のメンバー、若者サポートステーションの方々等々多くの人達のご理解、ご支援を受けてほかほかふれあいフェスタが開催できましたこと厚くお礼申し上げます。

《令和7年度つどいの開催報告》

「障害者週間のつどい」は、障がい理解を深め広めるために相模原市が障害者週間（12月3日～9日）に実施するイベントであり、「れんきょう」も協力をしております。

本年は12月7日（日）に、あじさい会館のホールにて開催されました。第一部は「心の輪を広げる体験作文と障害者週間のポスター」の入賞者の表彰式が行なわれました。



式典には、本村市長、大槻市議会議長を始め福祉関係団体の会長や常務理事が参加されました。入賞者には佐々木健康福祉局長から賞状と景品が手渡され、大きな拍手で祝福されました。また、あじさい会館ロビーでは、入賞された方々の作文、ポスターが展示され、来場された方々も熱心に鑑賞されていました。

第二部は、自閉症の息子（塚地武雅）と母親（加賀まりこ）が周囲の人々との間に生まれるトラブルに巻き込まれながらも誠実、懸命に生きてゆく様子を描いた映画「梅切らぬバカ」が上映されました。約150名の方々に参加いただきました。

《共生社会推進サポーター認定研修》

相模原市が目指す共生社会を推進するために、昨年度から実施された「共生社会推進サポーター認定研修」は本年度も実施されます。この研修会は「障害者差別解消法」の合理的配慮について、民間の事業者は従来、努力義務となっていました。これが義務に変更されたことに伴い、障害に関する理解を一層深めるために、昨年度は主として民間事業者の方々を受講対象者として実施しました。

本年度は受講対象者を民間事業者の他に一般市民の方々も加えて開催されます。講師は昨年度と同じ桜美林大学の谷内先生です。

今年度の開催予定日は令和8年1月15日（木）と2月7日（土）で、会場は両日ともあじさい会館6階の展示室です。多くの参加者が障がい理解を深めることを期待します。

1 開催日

令和8年1月15日（木）午後1時30分～午後4時

令和8年2月7日（土）午後1時30分～午後4時 ※どちらも同内容の研修になります。

2 申込期間

令和7年12月4日（木）～開催日の1週間前まで

3 申込方法：LoGo フォーム (<https://logofom.jp/form/oWjU/1314588>)

各回開催日の一週間前までに、QRコードから必要事項の入力をお願いいたします。



《NPO 法人れんきょう 研修会開催案内》 『デフリンピックの過去・現在・日本の未来』

日本で開催された聴覚に障がいがある「デフアスリート」が参加する国際的なスポーツ大会であるデフリンピックの歴史について、日本で行われた意義について、デフリンピックが終わった後のレガシーについて等を理解していただき、共に考えていく機会とする研修会を開催します。講師には、河原雅浩氏をお迎えします。

開催日時 令和8年2月1日（日）

午後1時30分～午後4時（午後1時 開場）

会場 相模原市民会館 3階 第1大会議室

講師 河原 雅浩氏

一般社団法人神奈川県聴覚障害者連盟 理事長

公益社団法人神奈川県聴覚障害者協会 事務局長

参加費 無料

※手話通訳・要約筆記がつきます

令和8年2月1日（日）
『デフリンピックの過去・現在・日本の未来』
1) デフリンピックについて（歴史など）
2) 日本でおこなう意義について
3) デフリンピックが終わった後のレガシーについて

講師：河原雅浩 氏
経歴：
一般社団法人 神奈川県聴覚障害者連盟理事長
公益社団法人 神奈川県聴覚障害者協会事務局長

開催日：令和8年2月1日（日）
会場：相模原市民会館 3階 第1大会議室
時間：開場午後1：00 開演：午後1：30
講演：午後1：30～3：30
質疑応答：午後3：30～4：00
*手話通訳・要約筆記あり 参加費：無料

主催：NPO 法人れんきょう
協力：相模原市聴覚障害者協会
後援：相模原市
社会福祉法人 相模原市社会福祉協議会
社会福祉法人 相模原市社会福祉事業団
相模原市長生委員児童委員協議会
認定特定非営利活動法人 相模原ボランティア協会

《第40回障害者による書道・写真全国コンテスト 書道部門で受賞》

橋本障害者地域支援センターぷらす★かわせみ

八木由志枝さんおめでとう

【金賞受賞作品】



表題コンテストに相模原市から今年度書道7点応募いたしました。全国からは1,099点（書道部門937点，写真162点）の作品が集まり、八木由志枝さんが見事金賞を受賞されました。

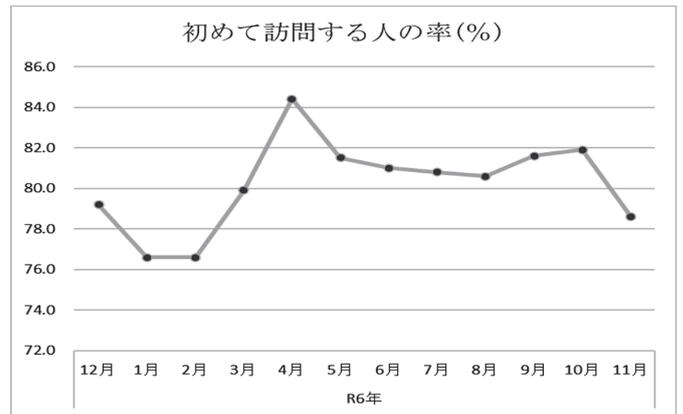
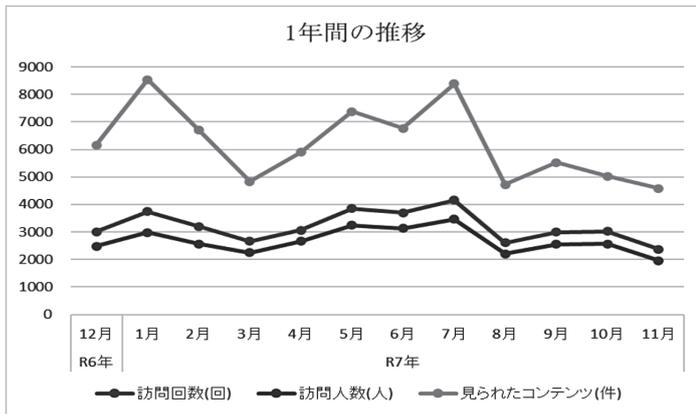
《「さーくる」の最近のアクセス状況報告》

最近のアクセス状況を下表のとおりご報告します。

	R6年 12月	R7年 1月	2月	3月	4月	5月
訪問回数（回）	3004	3745	3198	2671	3069	3856
訪問人数（人）	2488	2988	2569	2247	2663	3244
見られたコンテンツ（件）	6157	8540	6716	4834	5898	7370
初めて訪問する人の率（％）	79.2	76.6	76.6	79.9	84.4	81.5

	R7年 6月	7月	8月	9月	10月	11月
訪問回数（回）	3697	4151	2612	3000	3021	2371
訪問人数（人）	3130	3462	2204	2554	2569	1957
見られたコンテンツ（件）	6774	8379	4720	5521	5030	4591
初めて訪問する人の率（％）	81.0	80.8	80.6	81.6	81.9	78.6

「さーくる」の1年間の推移です。



さーくる 障害理解 **検索**

《令和7年「障害者作品展」が終わって》

相模原市身体障害者連合会（相身連） 小出 庄作

昨年も障害者作品展が12月5日（金）～7日（日）の3日間、あじさい会館6階展示室に相身連三団体と市内の障害関係事業所17団体が作品を出品してくれました。市内在住の障害者の日頃の活動の成果を発表する機会として、広く市民に障がい者の作品を見てもらい障害福祉の向上を目的とします。

今年はコロナの影響も無く作品数が去年より事業所17団体の作品が数多く会場に展示していただきました。3日間の開催中本村賢太郎市長を始め、大槻和弘市議会議員、佐々木純司健康福祉局長、県会議員、市会議員、市職員の方々が、観覧してくれました。3日間、天候にも恵まれて去年と同じくらいの入場者が来場され、作品を見学してくれました。令和8年の障害者作品展は障害者の自立と社会参加の促進を目的とする障害者作品展にして行けたらと思っています。



《第17回「さがみハート展」(詩と絵画のコラボレーション展)》

相模原市精神障がい者仲間の会 (あしたば会) 榛澤 昌高

毎年恒例になりました「さがみハート展」。今年度は1月22日から5日間開催されます。「さがみハート展」というのは、精神障がいや発達障がいを抱えた人が、想いや考えを詩に込めて、それをモチーフに、プロや一般の画家の方が絵を添えて、一緒に展示するコラボレーション展です。この展覧会を通じて、人と人がつながり、障がいへの理解が少しでも広がることを目指しております。障がいを抱えた者の悲哀や苦悩、幸せや喜び、安らぎや愛情、思ったこと、考えたことなどをメッセージとして発信する貴重な機会になっております。

精神障がいというのは、それを抱えている者の苦しみは目には見えません。それゆえ、苦しみは周りからは理解されず、偏見や差別につながってしまうこともあります。理解促進というのは簡単ではありません。しかし、私たちは精神障がいを人に分かってもらいたくて、言葉で説明することがありますが、理屈だけでは分かってもらえないことを、当事者は、よく分かっております。家族にすら、ほとんど分かってもらえず、それがまた苦しみを増幅してしまうこともあります。ただ目には見えないので分からないのは仕方なく誰が悪いというわけではありません。それでも、何とか分かってもらおうと努力することはとても大事なことだと思います。

先述した、この「さがみハート展」の目的の一つは「精神障がいへの理解が少しでも広がれば」。障がいを“理屈で分かる”ことも大事なことです。また、“心で感じる”ということも大事なことではないかと思えます。「考えるな、感じろ (Don't think. Feel.)」とはブルースリーの名言ですが、“心で感じる”というのは感情まで届くということです。精神障がい者に対して偏見や差別を強く持っている方、そういう方は精神障がい者に対して、あまり良い感情を持っていないことがあります。それは理屈だけではなく感情です。理屈で障がいを説明しても言葉での理解に留まり感情を変えるところまではいきません。人間は感情が先にあって、理屈は後からついていくと言います。後付けするのです。なので理解促進を本気で考えるなら、理屈だけではなく心にも感情にも訴えなければと思えます。

「さがみハート展」は“芸術”という切り口で当事者の声を発信しています。詩というは、もちろん言葉によるものですが、鑑賞者の心にも届けられる表現方法でもあります。鑑賞者の心に刺されば、感情を変えられるほどの効果があります。「芸術を鑑賞する会場というのは、他者への理解や尊重を育む“対話の場”」と言います。精神障がいという目に見えないものを、詩と絵画を通じて、作品に込めた思いを鑑賞者の心に届けることで、“心で語り合える”場になればと願っております。たとえ精神障がい・発達障がいを抱えても偏見や差別による“生きづらさ”からの解消に少しでも貢献できればと思えます！

【さがみハート展 (詩と絵画のコラボレーション展)】

日時：2026年1月22日(木)～1月26日(月) 午前10時～午後5時

(初日午後1時から 最終日午後3時まで)

場所：相模原市民ギャラリー (相模原市中央区相模原 1-1-3 JR 相模原駅ビル セレオ相模原 4階)



傷ついたカナリヤ

Chippy

青い空に 手が届きそうな翼で
空をかけぬける

デリケートな歌声をなびかせ
飛んでいる

たとえ傷ついても
見かけとはウラハラに
生きがいを携えて

《やまびこ会作品展報告》

相模原市自閉症児・者親の会（やまびこ会） 松原 充子

第18回相模原やまびこ会の作品展は9月19日～9月21日の3日間、おださがプラザで開催されました。「れんきょう」も後援する一団体としてこの作品展を支援しています。

会場には黒岩神奈川県知事と本村相模原市長の祝辞文や自閉症の特徴や行動パターンを説明するパネル、自閉症児・者の一生を概観し年代ごとの特徴やそれに対応する活動を示すパネルも掲示されました。これらのパネルは多くの方にとって自閉症の理解を深める有効なツールとなっています。

自閉症児者の作品は多岐にわたっていて、絵画、習字、刺繍、写真、粘土細工、課題作品制作（今回は親用バックチャーム、子ども用ジュートバッグのデコレーション）等多くの作品が展示されました。

毎年11月に開催されていた作品展ですが、今年は会場の都合で9月開催となりました。開催月の変更もあってか来場者が若干少なく、周知の方法が今後の課題です。

それでも、多くの方々がこの作品展を楽しみにされて会場に足を運んで下さいました。

また、昨年に続き今年も本村市長にご来場いただき、製作者本人からの説明に熱心に耳を傾けられていました。製作者も直接説明が出来た事を大変喜んでいました。

この作品展の会場設定や撤去作業に携わられたボランティアの方々、やまびこ会会員の皆様に感謝致します。

《事務局たより》

《令和7年度冬期受託事業販売協力依頼》

毎年恒例の受託販売にご協力をいただきありがとうございます。今年度も11月4日から麺ちゃんぽん・皿うどん詰め合わせ、島原のれん、島原小町（全粒粉ソーメン）御彩ちゃんぽんの販売を開始いたしております。

年2回の売り上げの一部を会運営資金にあてておりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

何卒、当協議会の主旨、目的を再度、ご理解いただきまして、格段のご協力の程よろしくお願いいたします。

- ①ちゃんぽん・皿うどん詰め合わせ（N-1）（箱入り）……………れんきょう販売価格 ¥2,500
（長崎ちゃんぽん麺100g×4袋 スープ4袋 長崎皿うどん麺60g×4袋 スープ4袋）
- ②御彩ちゃんぽん（NS-5）……………標準小売価格 ¥2,900円
（長崎ちゃんぽん麺100g×5袋、スープ5袋、調味油5袋、具材5袋）
- ③島原のれん（VS-45）（箱入りうどん）……………れんきょう販売価格 ¥3,200
（1260g詰90g×14束）/手延べうどん（丸）90g×7束・手延べうどん（平）90g×7束
- ④島原小町（ES-33）（箱入り全粒粉そうめん）……………れんきょう販売価格 ¥3,000
（50g×18束）

※販売期間：令和7年11月4日～令和8年1月30日

※販売場所：商品お渡し場所 あじさい会館内4階 NPO法人れんきょう事務所

※販売時間：午前10：00～午後4：00（月曜日～金曜日）

※お問合せ：NPO法人れんきょう事務所まで。電話042-755-5282

《新車紹介セールご協力のお願い》

～（株）クライム社様より新車購入紹介セールのお知らせ～

対象車種：乗用車、ライトバン、RV、トラック

対象メーカー：日産、ホンダ、マツダ、三菱、ダイハツ

新車購入の成約前に必ずNPO法人れんきょう事務所まで連絡をお願いいたします。

❖ご協力いただいた方には、協力手数料をお支払いいたします。

詳細はNPO法人れんきょう事務所まで（042-755-5282）